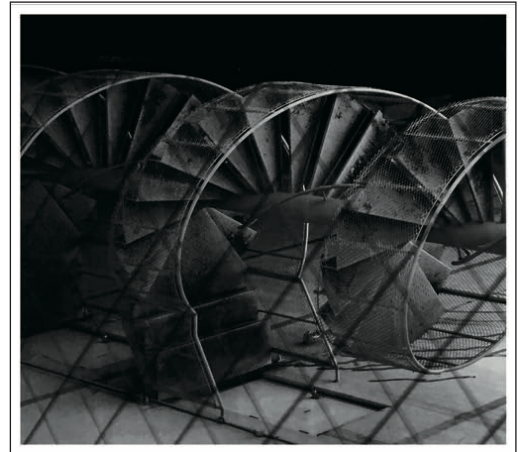


「大きな物語」の「夢」と希望が瓦解した世界で…。

能勢伊勢雄 (Live House PEPPERLAND)

われわれはいつから「大きな物語」を見失ってしまったのか、戦前は太平洋戦争があり、戦後は安保闘争があり、高度成長政策の夢を追いそして、全共闘運動では世界同時革命という「大きな物語」の夢を見てきた。これらの時代には多くの人間が共有できる「夢」があった。しかし現在ではコロナ・パンデミックに立ち向かう日々しか無い。今、思うとこれらの夢は全て幻だったのだろうか?? 「大きな物語」を失うと同時に社会が共有できる「夢」も消滅した。この現状に最も突き刺さる音楽が Juri Suzue の音楽である。



Juri Suzue 『Rotten Miso』 (CD remodel 43)

彼女は美術を志向した時期を経て、白塗り舞踏ダンサーに転身し、現在はDJ.として活躍している。彼女の住む関西圏でいえば、大阪には維新派があるが、むしろ、白塗り舞踏では大駱駝館・山海塾に影響を受けたのかもしれない…。アルバム・タイトル『Rotten Miso』(腐った味噌) から暗黒舞踏のエグさを感じ取れるのは偶然では無いだろう。

資本と消費の論理が先行し、物語や理念が失われた時代に表現の未来はあるのか?? このような漠然とした問いが頭を持ち上げ始めた 2020 年、パンデミックによってこれまでの「ハイパー資本主義の欲望」は見事に打ち砕かれた。政府が助成金という名称で「破滅的な蕩尽」を繰り返す中で、パンデミックによって内破された「夢」が霧散した結果、私たちは、ディストピアの現実へと転落を余儀なくされる。この「大きな物語」の「夢」と希望が瓦解した世界で音楽がどのように向かい合えばよいのか?? この問題に一筋の可能性を見せてくれたのが Juri Suzue 『Rotten Miso』(remodel 43) であった。

一般的にDJ.は予めセットリストとしてシーケンスを用意するものだが、Juri Suzue はこのシーケンス自体を解体し再構築しようとする特異なアプローチを行う。どのシーケンスをDJ.が選び取ろうとも音楽に染み込んだ過去の「夢」や気分が伴ってくことに気づき、シーケンスにまとり付いた「音楽の垢=夢」を解体することに挑戦した。徹底的に微分化し脱構築する展開の中に我々が曝されている現実が見えはじめる。まさにディストピアの現実に向かうことを引き受けた先に見えてきた「新たな語り口」の方法である。「新たな語り口」とは新しい音楽の「方法論」のことであり、音楽のスタイルを更新したことだ。これまでもカットアップやミクスチャー、マッシュアップ、ブリコラージュ…というスタイル=「方法論」が誕生してきたがこれらとも根本的に異なり、誰もが手を付けなかった領域に Juri Suzue は挑戦している。音楽において現代最も求められていることが音楽の「方法論」を革新することだ!!

その先はどこに向かうかは誰も判断できないが、音楽はこれで良い!! 音楽は次の時代霊に呼応した予感を、最も早く私達に伝えてきたメディアであるからだ。阿木譲が晩年語った 3.11、9.11 以降の音楽に現れ始めた「ポスト終末論的実在意識(Post-apocalyptic Entity Consciousness)」をまさに実践する良質のトラックだと言える。

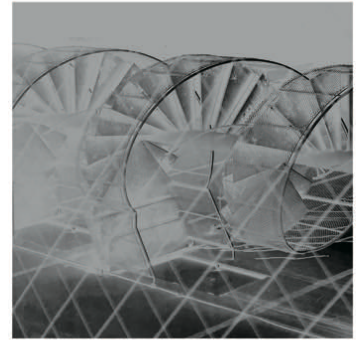
そして、このCDリリースに続き海外で Merzbow の Remix が加えられた LP リリースが展開される。我が国を代表するノイズミュージシャンの秋田昌美氏の手によるものだ。京都のノイジアン・中嶋昭文氏と話をしたことがある。AUBE というソロ・プロジェクトでの

イベント終了後に、ノイズには大きく分けて2つの流れがあることを夜明けまで話したことを思い出した。

WHITEHOUSE に代表されるパワーエレクトロニクスにつながるカム・オーガニゼーション系と NURSE WITH WOUND に代表されるユナイテッド・デイリーズ系である。カム・オーガニゼーション系のハーシュノイズに対し、NURSE WITH WOUND がメンバーの精神病理に向き合う形で用いたユナイテッド・デイリーズ系のノイズは根本的に異なっている。

海外で発売された Merzbow の CD60 枚ボックス『Merzbow10X6=60CDBOX』(SDRSW 114) の総てを聴けていないので、その全貌を断定するわけには行かないが、Merzbow はユナイテッド・デイリーズ系のノイズを扱える我が国で数少ない表現者であることは確かだ。

Juri Suzue の海外リリースの LP 『Rotten Miso』(remodel 44) はマスタリングを Kentaro Hayashi が手がけ、先行リリースされた CD から3曲が LP の A 面に再録されている。しかし、CD と聴き比べると倍音成分の関係からか同じテイクに聞こえないぐらいの優れたマスタリングに仕上がっている。そして、LP の B 面は CD の他の4曲を Merzbow がリミックスしたものだ。マスタリングによって強調され引き出された Juri Suzue のクラスター・ノイズが B 面の Merzbow によって記号的に差し挟まれたクラスター・ノイズとつながりアルバム全体の連続性と統一感を生みだしている。「音楽の垢=夢」を解体する過程で見えてくるノイズのイメージが Juri Suzue の現在の心境を代弁する。このような精神の深みを表現するには、ユナイテッド・デイリーズ系ノイズが最適であり Merzbow の起用は最良の結果をもたらしている。全体を通して CD 盤とは別物の新作アルバムと言える。海外リリースだけではなく、ぜひ国内リリースを望むアルバムである。



Juri Suzue 『Rotten Miso』(LP remodel 44)